

水俣学講義（京都告発）

熊本学園大学水俣学研究センター

12月17日：『水俣病を告発する会・京都』、駆け出し時代とこれまで」

大津定美（神戸大学・名誉教授）

（お話のアウトライン）：

1. 石牟礼道子『苦界浄土』の衝撃、水俣病への関心と繋がり、
2. 「裁判闘争」支援活動と京都告発、砂田さん・土本さん、
3. 熊本地裁判決(1973)と「英国留学」(1974-6)、
4. ソ連研究と「移行期経済」へ (1979-2009)
5. 「経済学研究者」にとってのミナマタ、
6. 3.11、SHP、ミャンマー

（若干の要点）

0. (はじめに)、自己紹介
北海道から東京へ、そして京都へ
60年前の世情、1960 安保闘争の「敗北」と「高度成長の陰」
1. 石牟礼道子『苦界浄土』の衝撃、水俣病への関心と繋がり、
2. 「裁判闘争」支援活動と京都告発、砂田さん・土本さん、
熊本地裁へ提訴と、支援活動の広がり、
演劇や映画上映、社会へのアピール、「一株運動」
「チッソ株主総会・大阪」、患者の発言の場を、
3. 熊本地裁判決(1973)と「英国留学」(1974-6)、
裁判支援と援農、学生と月浦へ、京都の患者さん認定支援へ、
「降って湧いた？、ロンドンへ大学留学」、2年間の英国生活
4. ソ連研究と「移行期経済」へ (1979-2009)
「国際経済研究」から、「ソ連社会主義研究」へ、
モスクワ留学 (1979-80)、ポーランド研究出張 (1983)、
モスクワ研究出張 (1989年、4-9月)
ベルリンの壁崩壊 (1989)、ソ連邦崩壊 (1991)、「移行期経済」研究へ
5. 「経済学研究者」にとってのミナマタ、
6. 3.11、SHP、ミャンマー